

舞鶴が池

観自在王院のなかでも重要な見どころのひとつが、この舞鶴が池です。上から見ると鶴が羽を広げたように見える池で、12世紀の庭園の貴重な例です。

池の設計や形は、平安時代（794-1185）の庭園に関する最初の学術書「作庭記」が記していたことと一致します。それには「池は鶴か亀の形に似せるのがよい」と書かれていました。

現在の観自在王院の舞鶴が池は、発掘調査の成果に基づいて修復・再生されました。池の幅は90メートルで、西側には巨石を用いた石組みがあります。池の中央には中島があります。